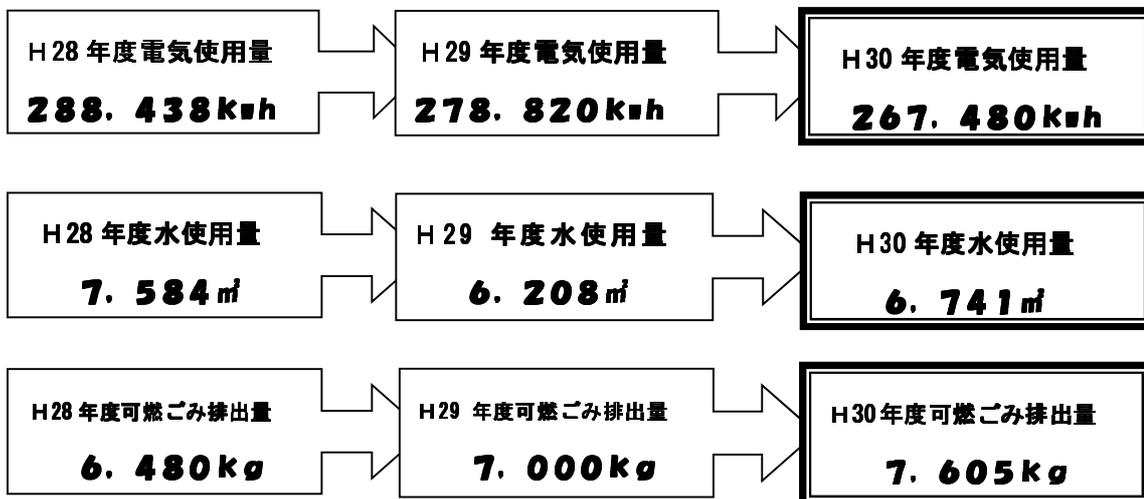


意識を高めて行動しよう

以下は、過去3年間の電気・水の使用量（4月～12月）と可燃ごみ排出量（4月～11月）です。平成30年度電気使用量は前年度の約4%減、平成30年度水使用量は前年度の約9%増（平成28年度は漏水事故のため一時的に水使用量が増えました）となっています。また、平成29年度可燃ごみ排出量は前年度の約8%増、平成30年度は前年度の約9%増となり、可燃ゴミの排出量はここ3年増え続けています（平成27年度可燃ごみ排出量は6,225kg）。



水脈

No. 128

- 発行
石川県立金沢二水高等学校
- 発行日
平成31年2月28日
- 編集
生徒保健委員会
生徒環境委員会

リデュース・リユース・リサイクルの「三つのR」によって廃棄物の量を減らして資源を有効に使う社会を循環型社会といいます。3Rは、Reduce（リデュース）…ゴミを減らす、Reuse（リユース）…再利用する、Recycle（リサイクル）…再び資源として利用するの3つの英語の頭文字を表したもので、この3つのRがゴミをできるだけ出さない社会（循環型社会）をつくるための基本的な考えです。本校は平成21年度に「いしかわ学校版環境ISO」の認定を受け、以来、「二水ECO」活動の名のもとに、①エネルギー消費量の削減、②ごみの分別と排出量の削減、③水・紙の使用量の削減と紙のリサイクル、④環境保全意識の涵養と地域の環境保全活動への参加などを目標に、生徒・教職員が協力してさまざまな活動に取り組んできました。ただ、残念なことに週2回の放課後のゴミ回収時には、プラゴミと燃えるゴミの分別が十分にされていないことがあったり、コンビニ弁当の容器、割り箸、残飯等と一緒にビニール袋に入れられた状態で捨てられたりすることもあります。紙のリサイクルのために、教室に設置されているリサイクルボックスも十分に活用されていないクラスも見受けられます。

ゴミを減らし、再生できるものを増やしていかなければ、あふれる一方となる現実に、私たちの社会は直面しています。本校でも可燃ゴミの排出量が増加している今こそ、二水生一人ひとりが自分の行動を見直し、ゴミの分別・削減、リサイクルに取り組んでほしいものです。



環境委員長

203H 横井 友哉

環境委員会は、ゴミの分別や教室の日常点検、ECO週間での節電・清掃の点検等の活動を通して本校のより良い環境づくりに取り組みました。

また、様々な取り組みを通して学校全体で環境を守ろうという意識を持つことが大切だと実感できました。一人一人がごみの分別・削減をするこ

とで、環境問題の進捗を抑えることができ

るので、学校全体で意識を高めていきたいと思います。

1年間環境委員の取り組みにご理解・ご協力を賜り、ありがとうございました。来年度も、皆さんのご協力をお願いします。

1年間の活動を

振り返って

環境副委員長

207H 居村 亮吾

今年一年、環境委員として活動する中で、最も印象に残っているのは二水アクトです。集められたゴミの量を見た時、「こんなにゴミが集められてすごい」と思うと同時に、「こんなに自分たちの周りにゴミが捨てられているのか」と考えさせられました。

二水アクトは私たちがゴミの問題や環境問題について考えるいい機会だと思えます。来年度も皆さん一人ひとりに意欲をもって様々な活動に取り組んでもらいたいと思います。

生徒保健推進講習会



8月10日いしかわ総合スポーツセンターで開催された石川県高等学校生徒保健推進講習会にて、保健委員会の研究係が研究結果を発表しました。その内容を紹介します。

勉強に効く！音楽の効果！2の研究

“音楽を聞きながら勉強すると効率が上がるのか”という疑問から昨年この研究を始めました。静かな環境（無音）と音楽を聴きながら100マス計算をしてもらいその効果を比較しました。今年はそれをさらに深めたいと思い、国語のような記憶・読解の問題において音楽との関係を調べました。

【仮説】

・国語のような記憶・読解問題をするときには静かな環境（無音）で行うのが一番効率良くできるのではないかと考えました。

【実験方法・結果】

保健委員・環境委員1・2年73名を2グループに分け、無音と音楽（J-POP、洋楽）を聴きながらかな拾いテストとその問題を解いてもらった。

（*かな拾いテストとは文章の中から「あ・い・う・え・お」を探し○をつけながら読むもの）

結果、かな拾いの作業において無音と音楽を聴きながら行ったものを比べるとJ-POPは点数が下がったのに対し、洋楽は明らかに点数が上がった。問題においてはJ-POPは下がったのに対し、洋楽は点数の差がほとんどなかった。

【考察】

・国語のような勉強をするとき、J-POPは知っている単語に反応してしまい、問題に集中できないのが点数の低下の原因ではないかと考えました。

・洋楽は言語が含まれているがメロディーとしてとらえている人が多かったため、勉強にあまり影響がなかった。作業においてはリラックス効果もあり点数が上がったのではないかと考えられる。

【金沢大学子どもこころの発達センター菊知先生・池田先生からのコメント】

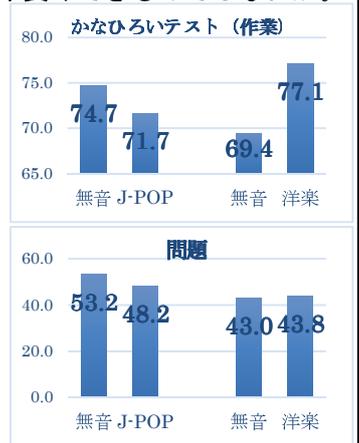
勉強と音楽の関係については脳の使い方や勉強内容によって違いがあるため、絶対にこれがいいと言うのは難しい。しかし、かな拾いの作業では無音より洋楽の点数が上がったことについてt検定を行うと有意な差があった。

【まとめ】

国語のような読解問題をするときJ-POPを聴くことは作業効率も、意味理解においても良くなく、洋楽は意味理解において無音と大きな差はなかったが作業効率を上げるには効果がある可能性がある。

【さらに】

9月から数学や国語のような勉強と4つの種類の音楽（J-POP、洋楽、クラシック、BGM）との関係を引き続き研究しています。3月20日のオレンジコンサートで発表予定です。乞うご期待!!



生徒保健推進講習会に参加して

保健委員研究係 小池 遥風

私は今回初めて石川県高等学校生徒保健推進講習会に参加しました。初めてでしたがとても良い経験となりました。私たちの学校では、「音楽を聴きながら勉強をしたら効率は上がるのか？」というテーマで研究をしました。普段からよく音楽を聴く私にとってこのテーマはとても興味深いものでした。アンケートや実験を行った結果、国語のような読解の問題を解く際に「メモ」を聴くことは作業効率も意味理解においても良くなく、洋楽は意味理解において無音と大きな変化はありませんでしたが作業効率を上げており、非常に効果があつて、聴くほうが勉強に良いと言えるとわかりました。この結果を金沢大学子どもこころの発達センターの先生方にお伝えするとその結果が確かな結果であるということがわかりました。

そして本番、緊張しましたが、いつもの練習通りに協力して頑張ることができました。二水の発表の他には9つの高校からたくさんの生徒が参加して来ていました。どの高校の発表も自分たちで考えたテーマを自分たちで実験し、まとめていくとてもおもしろく、興味深いものばかりでした。特に私が一番おもしろいと感じたのは、能登高等学校の発表でした。テーマは「危機管理のイロハ」で防災の道具や設置してある公共の装置について、また実際に災害にあった時に役に立つ情報等をまとめていました。発表会に参加し、たくさんの方の生徒や先生方とアイスブレイクなどで話すことができてとてもよかったです。良い経験になりました。

発表を聞いた他校生の感想
「私はよく音楽を聴きながら勉強するのでジャンルを考え選曲しようと思った。」「身近なことを研究してとても引き付けられた。」